

減災に向けてできること
気仙沼市立松岩中学校 二年 佐藤 里桜
ものすごい勢いで流れる河川。水の中に浮
かぶように立ち、孤立している民家。山の斜
面が崩れ、家や道路を押し流す。
この夏、テレビの画面からは河川の氾濫や
土砂災害のニュースが毎日のように報道され
ていました。私はインタビューを受ける人の
話を聞きながら、そこで暮らす方々が恐怖と
不安に耐え、今後の生活を心配する気持ちか
ひしひしと伝わり、心がとても苦しくなりま
した。そして、自分が住む気仙沼市にももの
すごい雨が降り、河川が増水したり、土砂災
害が起きたらどうしようかとドキドキしてし
まいました。
テレビのニュースをじっと見ていた私と姉
に父が「スマホを使って調べてみよう」と声
をかけてきました。父から言われた「国土交
通省 土砂災害 ハザードマップ
ポータルサイト」を検索す
ると、ハザードマップポータルサイトが

しかし、私たち姉妹が通うピアノ教室までの
道路上が「急傾斜地の崩壊特別警戒区域」と
なっていていました。そういえば、十年前の東日
本大震災で斜面の階段が崩れたことを以前父
から教えてもらっていたことを思い出して、過
去のことも忘れずに常に意識しておくことが
大切だと実感しました。

「私の学校、危ないんだろ」と隣で調べて
いた姉の声に、姉の通う高校周辺を調べてみ
ました。すると、「地滑り」、「土石流」、

急傾斜の崩壊の警戒区域が多く見られまし
た。気仙沼市はリアス海岸のため山の斜面
が海岸部にまでせりだしてきており、そのた
め豪雨や地震の時には気をつけなければいけ
ないんだなうと思いました。また、父の知人
の自宅が土石流の警戒区域に接していること
に気がつきました。そのことを父に伝えると
「パパも最近知ってびっくりしたんだ。彼に
話したら知らなくて、教えてたことをとても
感謝されたよ」と言われました。そこに住ん

でいる人たちが自分の住んでいる地域の情報を
を知っておくことの重要性を感じました。私
が父からこの便利なアプリを紹介されて知っ
たように、多くの人たちが自分の住んでいる
地域の災害への危険性に関心を持ち、調べ、
事前に知っておくことで災害の被害を少なく
できるのではないかと思います。すなわち、
防災
へのつながることで、事前に危険性がわかって
いれば、災害に応じた準備や心構えができ、
いざというときにすばやく行動できると思
います。姉は、高校から歩いて帰ってくる
ときに地震が起きたら、津波から逃げるた
めのルートを場所ごとに決めていたけれど、
土砂災害は考えていなかったな。と話し、
父と一緒に逃げるルートや集合場所を相談
しはじめました。
私の家族は災害時の避難についてよく話
題になり、貴重品や非常時持ち出しバック
の置き場所、避難したときの家族の集合場
所などを、また、夜に停電したときに備え、

ライトを日頃から持ち歩くことへ姉たちはスマホのライトを使用するそうです。冬に備えるための防寒着の準備も忘れてはなりません。先日は両親と一緒に非常時持ち出しバツクの中身を点検し、電池の液もれや着替え用の服の交換を行いました。ニュースを見て、台風や豪雨の自然の力の大きさに無力感を感じてしまいます。しかし、できること、すなわち事前に調べ、しっかり備え、家族や地域の人たちと情報を共有すること、災害を防ぐことはできなくても、減災はできると思っています。気仙沼市は東日本大震災で大きな被害を受けたからこそ、市役所の方や市民の方の災害への意識が強く、市独自のハザードマップがあり、避難訓練も充実しています。私も地域住民の一人として、災害への関心を持ち、「減災」に向けて行動していきたいです。